

「エージェント対エージェントレス」 システム監視における TCO(総所有コスト)比較

Enterprise Management Associates によるケーススタディ

2005 年 12 月



ENTERPRISE MANAGEMENT
ASSOCIATES



目次

エグゼクティブ・サマリ	3
はじめに	3
エージェント・ソリューションとエージェントレス・ソリューションの比較	3
メンテナンスのしやすさ	4
鍵となるのはコストのコントロール	5
機能の充実度	5
導入の迅速性	6
その他の考慮点	7
詳細インタビュー	7
多角的なテクノロジー企業の例	7
コンピュータ・ゲーム企業の例	8
総所有コスト (TCO)	8
EMA の見通しと所見	9

エグゼクティブ・サマリ

このホワイトペーパーでは、システム監視におけるエージェントベースとエージェントレスの両テクノロジーおよび市場における最近の動向を踏まえて、エージェントとエージェントレスの2つの手法を比較調査した結果を報告しています。Enterprise Management Associates (EMA) は 2005 年 9 月、システム監視における動向について監視対象にエージェントと呼ばれるソフトウェアをインストールする「エージェント・ソリューション」とエージェントを入れない「エージェントレス・ソリューション」に関して、市場調査を実施しました。さらに、この調査結果を補完するため、システム管理にエージェントベースとエージェントレスの両方を使用しているフォーチュン 1000 企業の 2 社に対して詳細な聞き取り調査もあわせて行いました。

分析の結果、調査およびインタビューの結果には密接な相関関係があることが明らかになりました。エージェントレスの監視ソリューションは、コスト、およびメンテナンスのしやすさ、導入や配備の迅速性、サーバへの影響といった企業にとって最も重要な問題を解決します。TCO (総所有コスト) 分析により、エージェントレス監視ソリューションを導入した企業では 5 年以上にわたって TCO が大幅に減少していることが明らかになりました。しかし、多くの大手企業では、エージェントレス監視ソリューションでは収集できない情報を取得するために、いくつかの領域でエージェントベースのソリューションが必要であることを認識しています。今回の比較調査の結果として、EMA は、企業全体においてエージェントレス・ソリューションを導入し、必要に応じてエージェントベースのソリューションを必要に応じてポイント・ソリューションとして補完するといった、監視戦略の見直しを検討することを推奨します。

はじめに

IT (情報技術) は今まで劇的な発展と発達を遂げ、企業や社会も IT を積極的に取り入れることで利便性や競争力を高めてきました。そして、1990 年後半にはその頂点を迎えました。一方、21 世紀にはいり、猛スピードで新しいテクノロジーを取り入れる代わりに、既存のインフラストラクチャの安定性を向上させることにフォーカスする先進的な IT 部門が増えてきました。その中で、品質とコストのトレードオフの問題がクローズアップされています。EMA の調査では 2000 年以降、大手企業におけるサーバの

安定性が着実に向上していることが報告されています。昼夜休みなしに働いている技術スタッフにとって、この結果は喜ぶべきことのように思えます。しかし、IT 部門に対する期待は飛躍的に高まっており、解決すべき課題は一段と厳しいものとなっています。次に来る IT 革命を加速させるのは、かつてないほどのサービス・レベルと柔軟性をエンドユーザに提供する次世代の高性能アプリケーションです。ますます複雑になっていくアプリケーションには新たなシステム管理が必要になってきます。EMA の予測では、今後 5 年間でシステム管理の主題は、インフラストラクチャの安定性と性能確保からアプリケーションの可用性とエンドユーザ体験の測定へと大きく移行していくとしています。アプリケーションの開発からリリースまでのスピードはますます速くなるため、監視ソリューションが成功を収めるためには、そのスピードに遅れをとらないように柔軟性と配備の迅速性を高める必要があります。

調査の回答者の 88%が、現在の利用しているインフラストラクチャの監視能力に満足していました。

エージェント・ソリューションとエージェントレス・ソリューションの比較

エージェントベースのシステム管理ソリューションでは、インフラストラクチャ全体でサーバに対しての監視ソフトウェアをインストールする必要があります。これらのエージェントは、さまざまな API、システムおよびアプリケーションレベルでの呼び出しや、多くの場合、ログ・ファイルや集積されたデータへのアクセスを通じて情報を収集します。エージェントによって収集されたこれらの情報は、中央の監視サーバに送られます。監視サーバでは、エージェントからの測定値は表形式で記録され、しきい値および警告がチェックされ、その結果がエンドユーザに表示されます。

エージェントレスのシステム管理ソリューションは、個々のサーバに対してソフトウェアをインストールする必要はありません。代わりに、中央管理サーバがインフラストラクチャ内の監視対象デバイスをポーリングすることにより、公開済みの API、システム、およびアプリケーションのインタフェースを介して可用性とパフォーマンスに関する情報を取得します。エージェントベースのシステム管理ソリューションと同様に、リアルタイム統計データと過去の統計データ、警告、および測定値がシステム管理ダッシュボードを経由してエンドユーザに表示されます。

エージェントとエージェントレスのテクノロジーに関する比較はそれほど難しくありませんでした。これまでは、一般に、エージェントベースのソリューションは、以下の点でエージェントレス・ソリューションを上回っていると考えられてきました。

- より詳細なデータを提供すると同時に、アプリケーションおよびサーバの機能面でより詳細なチェックが可能なこと
- ネットワーク帯域幅が狭い場合でも効率的な運用が可能であること
- ネットワークが利用できない場合でもサーバを監視できること
- 問題のあるサーバをチェックする場合、より多くのコマンドや制御機能を実行できること

これに対して、エージェントレス・ソリューションの利点は次のようになります。

- 低コストであること
- アップグレードなどの繰返しのメンテナンス作業を簡素化できること
- 監視対象システム環境への監視ソリューションを短期間で導入・配備できること
- 監視対象サーバのリソース負荷が少ないこと

エージェントとエージェントレスの比較を確実にするためには、上記の8つの特長を十分に理解しておく必要があります。テクノロジーの進化によって、上記の比較ポイントのいくつかの重要性は薄れ、同時に、多くのIT部門が直面する費用面での制約によって、比較するポイントの優先順位に変化が生まれています。EMAでは企業がこれらのポイントにどれだけの比重を置いているのかを調査しました。結果は次の通りです(図1)。

メンテナンスのしやすさ

ITスタッフのスキル・レベルが同一あるいは下降している近年の動向を反映して、最も多くの回答者が「最も重要である」とした特長は、メンテナンスのしやすさでした。全回答者の38%が、メンテナンスが最も重要であると回答し

ています。

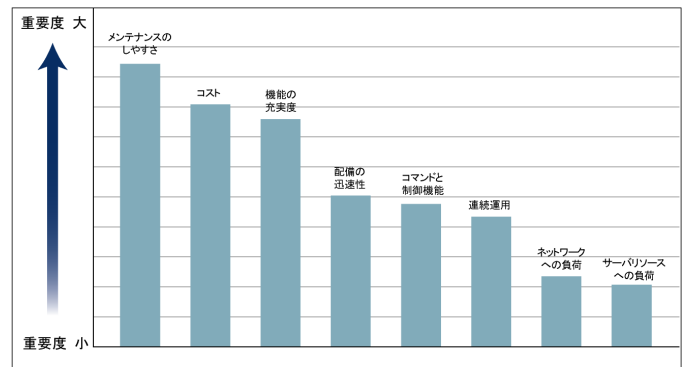


図1: システム監視ソリューションにおける重要度 (出典: EMA December 2005*)

図1: システム監視ソリューションにおける重要度

エージェントとエージェントレス・ソリューションにそれぞれ関連するメンテナンスコストを完全に数値化することは困難です。しかし、テクノロジーの観点から比較すると、メンテナンスコストの違いは明確です。エージェントベースでは、インフラストラクチャ内のすべての監視対象サーバにエージェントソフトウェアをインストールする必要があります。インストールしたソフトウェアをアプリケーションやオペレーティングシステムのバージョンに合わせて最新の状態に保つためには、監視対象サーバのすべてにアップデートや修正プログラムを適用しなくてはなりません。また、監視対象のサーバで収集される情報を一定のレベルに保つためには、チューニングも必要になります。また、さまざまなリソース(オペレーティングシステム、アプリケーション、など)を監視するために、1つのサーバに複数のエージェントがインストールされることもあります。さらに、本番用のサーバにインストールされたエージェントソフトウェアによる障害やダウンタイム発生の可能性も出てきます。場合によっては、エージェントソフトウェアをアップデートするために本番システムをオフラインにしなくてはなりません。エージェントとエージェントレスのいずれのソリューションでもデータ収集用の監視サーバは常にメンテナンスする必要がありますが、エージェントレス・ソリューションでは監視対象のサーバに対するメンテナンス作業の必要はありません。

実際に、各ソリューションの“メンテナンスのしやすさ”を正しく測定するには、メンテナンスに何人のITスタッフを要しているかを調査することが必要です。後述のケーススタディでは、エージェントベースのソリューションからエージェントレス・ソリューションに変更したことによって人員が60%削減さ

れたという結果が報告されています。

「エージェントベースのソリューションをエージェントレス・ソリューションに置き換えることによって、監視グループに属する正社員を 5 名から 2 名に削減しました。」
-フォーチュン 1000 のコンピュータ・ゲーム・メーカーの取締役

もうひとつの例は EMA が以前実施した調査によるものです。この調査では、フォーチュン 500 にランクされる同規模の金融機関 2 社を検証しました。一方の金融機関では主にエージェントレスの方法を採用し、もう一方では、主にエージェントベースのソリューションを使用していました。システム監視を担当する IT 部門の正社員の数は、エージェントベースのソリューションを使用している企業ではエージェントレスを採用している企業の 2 倍でした。エージェントソフトウェアをメンテナンスするためと新規に導入されたアプリケーション・サーバの監視環境を構築するために余分な要員が割り当てられていました。

「エージェントベース・ソリューションに比べてエージェントレス・ソリューションではセットアップおよびメンテナンスにかかる時間が短縮された」と述べた回答者の平均で、35%から 60%の時間が短縮されたと報告されています。

鍵となるのはコストのコントロール

監視ソリューションを検討している企業にとって、コストは重要な要素のひとつです。ソフトウェア、ハードウェアから導入・配備、メンテナンスまでの総コストが数億円から数十億円に達するプロジェクトもあるなかで、企業は支払う金額に見合うだけの価値があるかどうかを厳しく検証しています。

「従来型のエージェントベース・ソリューションからエージェントレス・ソリューションに切り替えたことで、ライセンス料だけをとってみても監視用ソフトウェアにかかるコストを 120 万ドルから 50 万ドルに削減することができました。」
-フォーチュン 100 の多角的なテクノロジー企業の部長

TCO に関する経験に基づいたケーススタディは、このホワイトペーパーの最後に記載されています。これは、詳細

なインタビューに応じていただいた複数の企業の中の 1 社に関するものです。しかし、無作為抽出による調査での「エージェントレス・ソリューションはエージェントベースのソフトウェアよりもコストが低い」という結果は、監視およびシステム管理の市場調査において大きな意味を持っています。たとえば、エージェントベースとエージェントレスの監視のコストを比較する詳細な分析が、フォーチュン 500 の企業のとある保険会社によって最近実施されています。この会社では、長年エージェントベースのソリューションを使用しており、ソフトウェアおよびハードウェアのシステム管理コストは年間 178 万ドルでしたが、エージェントレス・ソリューションに移行後の年間コストは 93 万ドルに大幅に減少したと報告しています。

コストに関するもうひとつの注目すべきデータは、ソフトウェアのメンテナンスにかかる年間のコストです。多くの場合、このコストはベンダーによって異なり、ソフトウェアの初期購入費の割合に応じて、顧客ごとに調整されているのが現状です。しかし、EMA の調査では、ソフトウェアの総コストに占めるソフトウェアの年間メンテナンスの割合はベンダー間でほとんど違いはありませんでしたが、ソフトウェアの初期購入費が高ければ高いほど、年間のメンテナンス料金も高額になっていました。

機能の充実度

調査に基づいたランキングで 3 番目に重要な項目は、監視用ソリューションが提供する機能の充実度です。回答者の 50%が、「ある状況においては特定のデータを収集するためにはエージェントレス・ソリューションとエージェントベースのソリューションを併用する必要がある」とコメントしています。これらの要件としては、カスタムスクリプトやバッチファイルからデータベース性能測定値までさまざまです。いずれの場合でも、エージェントから必要なデータは、サーバまたはアプリケーションのタイプ（データベース・サーバなど）ごとにまとめられるデータです。

「2 から 3 の Exchange サーバを除く 1,000 台のサーバすべてにインストールされている従来のエージェントを取り除き、エージェントレス監視に切り替えることに成功しました。」
-フォーチュン 1000 のコンピュータ・ゲーム・メーカーの取締役

EMA は 2005 年 6 月に Network World の一連の記事で、エージェントレスとエージェントベースの監視を組み合わせて利用

しているケースについて報告しています。エージェントレス・ソリューションを事実上の標準（デファクトスタンダード）として企業全体で使用し、エージェントベースを必要に応じて配備しています。これにより、企業は両方の長所を活用できるため、サーバごとにニーズに合ったソリューションを選択することができます。

大部分の顧客が主にエージェントベースのソリューションを使用していましたが、調査対象の95%はシステム管理ソリューションで何らかのエージェントレス・コンポーネントを使用していました。

近年、商用アプリケーションおよびハードウェアのベンダーは、監視のオープン・スタンダードに方向を定めています。こうしたベンダーは、ベンダー独自のAPIに依存するのではなく、コストの高い独自のカスタムモジュールがなくても自社製品がエンタープライズ監視機能に「プラグイン」できることの価値を理解しています。過去12ヶ月の間に標準の監視用フックを使用してアプリケーションを開発するという概念は、アプリケーション開発の方法論およびツールに浸透しました。EMAでは、今後2年から3年の間に標準の監視用APIがアプリケーション開発において広く採用されること、また、多くの大手企業において上位レベルの標準として、エージェントレス・ソリューションの導入が加速し、エージェントベースの監視は補助的な役割を果たすことになると予測しています。

一方でアプリケーションおよびハードウェアの詳細なデータへのアクセスを提供することには、過剰な量の情報を収集してしまい、収集した情報を効率的に利用できなくなるというマイナス面の指摘もあります。全回答者の33%は、システム管理ツールによって過剰なデータが収集されていると感じています。これは、使用する監視ソリューションの種類に固有の問題ではありませんが、特定のデータを収集できるからといって、それらをすべて収集すべきであるとは限らないのです。エージェントベース・ソリューションを使用している場合、より詳細なデータを収集したくなる誘惑は大きくなります。しかし、そのデータに使い道があるかどうか、あるいは実際に使用するかどうかは分かりません。

また、企業はエンドユーザ体験の測定についても注目すべきです。サーバ性能の詳細な測定値ではすべてのパラメー

タがしきい値の範囲内であることを示していても、エンドユーザは必要な情報にアクセスすることができないことが多々あります。エージェントベースおよびエージェントレスのどちらの監視ソリューションであっても、個々のサーバだけではなく、エンドユーザの視点からアプリケーションの可用性とパフォーマンスを測定するための統合化されたアプローチを提供することが必要です。

導入の迅速性

重要度の4位にランクされた配備の迅速性は、監視ソリューションにとって特に配慮すべき重要な項目です。これまでエージェントベース監視ソリューションの大規模な導入には、数年間を要することもありました。EMAの調査では、新規テクノロジーの導入を成功させるには、システム監視における測定値を3ヶ月ごとに向上させていかなければならないことを示しています。

「3ヶ月という短期間にもかかわらずエージェントレス・ソリューションを全社に配備することができました。しかも、要した人員は正社員2名とコンサルタント1名だけでした。以前エージェントベースのソリューションを導入した際には、導入に1年以上かかったうえ、正社員5名と外部コンサルタント10名を必要としました。」-フォーチュン1000のコンピュータ・ゲーム・メーカーの取締役

エージェントベースのソリューションを配備するには、企業内の全サーバにエージェントソフトウェアを配布しなくてはなりません。監視スタッフおよびサポートスタッフが必要とする重要な情報を収集しながら、監視対象システムへの影響を最小限に抑えるように、エージェントのインストールおよびチューニングする必要があります。ほとんどの主要ベンダーが最近改良を加えてはいるものの、このプロセスはいまだに時間がかかるうえ、システムに影響をおよぼす危険が生じます。これに比べ、エージェントレス・ソリューションでは多くの場合、担当者が監視対象のデバイスに触れなくてもサーバが自動的に検出され、一元的に構成されます。

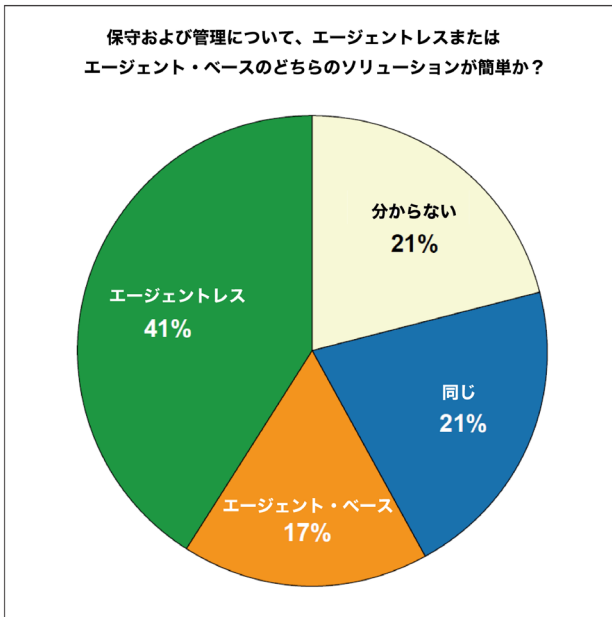


図 2： 導入とメンテナンスのしやすさ

その他の考慮点

残り 4 項目は、今回の調査では重要性が低いという結果になりました。これらの項目は、「コマンドと制御機能」、「ネットワークがダウンした場合の連続運用」、「ネットワークへの負担」、および「監視対象のサーバリソースへの負担」です。これらのうちのいくつかは、過去 10 年にわたるハードウェアの進化によって重要ではなくなっています。たとえば、エージェントとデータ収集用のサーバとの間で監視データを送信するネットワーク負荷と、サーバをポーリングして監視データを収集用サーバに返すネットワーク負荷ジェネレータとを比較して考えてみましょう。10 年前、多くの企業にとってネットワーク帯域幅は制限要因の 1 つでした。しかし現在ではいずれの方法においてもネットワーク内を移動する監視データの量はごくわずかであり、ネットワーク帯域幅も十分に確保されています。また、この調査では、サーバリソースの負荷、コマンドや制御機能、および連続運用という要素は、大部分の企業にとって監視ソリューションを選択する上で重要な要素ではなくなっていることを示しています。

詳細インタビュー

EMA は、2 つの IT 企業で徹底した聞き取り調査を行いました。1 つはフォーチュン 100 の多角的なテクノロジー製造業界のリーダーで、もう 1 つはフォーチュン 1000 のコンピュータ・ゲーム・メーカーです。どちらの企業もエー

ージェント・ソリューションとエージェントベース・ソリューションを組み合わせて使用していました。この詳細インタビューは、ハードウェアコストとソフトウェアコスト、およびそれぞれの監視機能に関連する利点を明確にすることを目的としました。

多角的なテクノロジー企業の例

多角経営をするこのテクノロジー企業は、他の多くの大手企業と同じ問題に直面していました。会社の成長にインフラストラクチャが追いつけなくなっていたのです。そのためシステムの安定性が損なわれ、発生しているさまざまな問題を監視し、診断し、解決するためにシステムを可視化することが必要になっていました。5,000 台のサーバを抱えながら社内スタッフが 100 名しかいなかったこの企業では、IT 運用の大部分をアウトソーシングしました。

この企業はエージェントベースを主要な監視フレームワークとして 7 年間使い続けていましたが、ライセンスの最新バージョンへのアップグレードと 1 年間のサポート契約で 390 万ドルの請求書を受け取りました。そこで最近、従来のソリューションをエージェントレス・ソリューションである Mercury SiteScope に交換することを決定しました。この決定により、ライセンスおよびサポートにかかるコストは同じ期間で 100 万ドルまで削減されました。また、この企業はアウトソーシング契約の見直しとコストの削減も検討することができるようになりました。

この企業では、Oracle サーバなどの特定のミッションクリティカルな基幹アプリケーションの状況を詳細に解析するためにエージェントベースの監視システムを引き続き使用していますが、インフラストラクチャ部分の継続的な監視は SiteScope で行っています。さらに、SiteScope により、「極めて複雑な heterogeneous な環境であっても単一のツールとダッシュボードで対応できるようになっています」とこの企業の IT マネージャは述べています。また、この企業では、エージェントレスの強力な統合ソリューションを使用してエンドユーザ体験の測定と監視を行っています。

この企業では、監視ソリューションについて、最も重要な項目を 3 つ挙げていますが、これらは EMA によるインターネット調査結果と全く同様に、メンテナンス性、費用、そして導入の迅速性でした。SiteScope の導入は現在も進行中ですが、IT マ

ネージャは「配備の容易性と迅速性」、「直感的な操作性」、「ライセンスおよびサポート費用の大幅な削減」を既に確認しています。

コンピュータ・ゲーム企業の例

このゲーム企業では、1000 台のサーバで構成する複雑な IT 環境を 300 名以上の IT スタッフが管理しています。10 万人以上の同時ユーザが常時プレイする大規模なオンラインゲームコミュニティをサポートし、同時発売に合わせて数十万本のゲーム・パッケージを小売店舗に配送するという任務が課せられているなか、システムの可用性確保はこの企業にとって極めて重要な意味があります。電子ゲーム業界の顧客は最も注文が厳しく、非常に競争が激しい環境となっているため、アップタイムの要件は 99.99%が求められています。

この企業では、インフラストラクチャの監視フレームワークを構築するために 1990 年代にある大手ベンダーからエージェントベースのソリューションを購入しました。導入には一年間を要し、全社的な導入と構成に外部ベンダーのコンサルタント 10 名の協力が必要でした。その後、この企業では監視ソリューションの管理と運用のために 5 名の常勤の従業員を新規に雇用しました。このソリューションにより、適切な管理環境が構築できましたが、メンテナンス費用の増加、管理の難しさ、さらにサーバへの負荷が許容できないものとなったため、この企業では、2000 年にエージェントレス・ソリューションへの切り替えを行うことになりました。

エージェントベースのソリューションとは対照的に、Mercury SiteScope は 3 名の社内スタッフが SiteScope のコンサルタント 1 名の支援を得て 3 ヶ月で配備が完了しました。初期導入手順も非常に簡単なものでした。独自の傾向分析機能とレポート作成機能を備えた SiteScope のレポート機能を増強するために外部の SiteScope コンサルタントが初期の段階で参加しましたが、最終的に SiteScope のオープンなデータアーキテクチャを活用することで、社内の開発者が最適なレポート機能を実現できると判断しました。エージェントレスのアプローチによって、リソース集約型のエージェントベースのソリューションを置き換えたことにより、少ないスタッフ数とメンテナンスコストで、顧客の要求を満たす全ての測定値を提供できました。

エージェントレス手法を採用したことにより、別の利点も企業にもたらされました。一般的に Linux のメンテナンスは困難であるといわれています。最新のネイティブ・システム・コマンドを活用するためには、新バージョンのオペレーティングシステムが必要となりますが、エージェントベースのソリューションでは、監視モジュールのリリースを Linux の新バージョンのリリースに短期間で追従させることは不可能であり、新バージョンのリリースから 3 ヶ月程度の遅れが生じることも多くありました。SiteScope では、エージェントを使用しないため、オペレーティングシステムのネイティブコマンドを活用することにより必要な情報の提供を可能にしました。

SiteScope ではこの企業が必要としているだけの詳細なレベルで電子メールの遅延時間を測定できないため、現在でもエージェントベース・ソリューションを使用して、Microsoft Exchange 環境を監視しています。一方で、組織内のすべてのサーバがエージェントレスのソリューションにより監視されています。この企業では、エージェントベースのソリューションで利用可能なきめ細かなポーリングサイクルが望ましいとは考えていますが、メンテナンスの容易さとサーバ負荷の軽減はエージェントレスのソリューションに切り替えるだけの価値があると判断しています。

総所有コスト (TCO)

EMA の調査では、購入、導入・配備、そしてメンテナンスにかかる費用について、エージェントレス・ソリューションがエージェント・ソリューションと比較して高価であった事例は存在しませんでした。一方、企業がエージェントレス・ソリューションにより TCO を大幅に削減できた事例がいくつか報告されています。これらの事例における TCO の大幅削減の要因は、エージェントレス・ソリューションのメンテナンスおよびサポートに必要なスタッフを削減できたことであったことが判明しています。前述のコンピュータ・ゲーム企業の事例においては、TCO の大幅削減が以下の表のように要約されています (表 1)。

	エージェントベース	エージェントレス
初期ソフトウェアコスト	\$320,000	\$200,000
初期導入コスト	1年あたり ITスタッフ5名+コンサルタント10名 = \$1,500,000	3ヶ月あたり ITスタッフ2名+コンサルタント1名 = \$75,000
初期ハードウェアコスト	\$50,000	\$50,000
総導入コスト	\$1,870,000	\$325,000
運用スタッフ	\$500,000/年	\$200,000/年
ソフトウェア・メンテナンス	\$64,000/年	\$40,000/年
総運用コスト	\$564,000/年	\$240,000/年

表1: エージェントベースとエージェントレスのTCO比較

表 1: エージェントベースとエージェントレスの TCO の比較

以下の図が示すように、エージェントベースのソリューションの TCO（総所有コスト）が 5 年間で\$4,126,000、エージェントレスのソリューションの同期間における TCO が\$1,436,000 となっており、大きな違いとなっています。

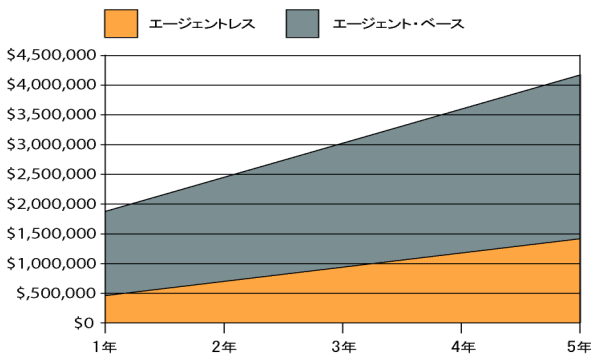


図2: 5年累積ベースのTCO

図 3 : 5年累積ベースの TCO

EMA の見通しと所見

EMA は、同社が 2005 年 9 月に実施した調査、2005 年 10 月に実施した詳細な聞き取り調査、EMA および他の調査会社による継続的な市場調査との間には密接な相関関係があると述べています。EMA では今回の調査所見として、エージェントレスの監視ソリューションは、企業が抱えている主要な課題である「コスト」、「メンテナンスのしやすさ」、「導入・配備の迅速性」、「サーバ負荷の削減」への対応が可能であるとしています。また、これまでエージェントベースのソリューションの強みとされていた多くの機能が、サーバやテクノロジーの進化により以前より重要度が低下してきた、あるいは必要ではなくなってきたことも示されました。さらに、EMA は、今回の調査結果から、システムの監視戦略を企業が定期的に見直すことを強く推奨しています。現状では、企業全体においてエージェントレス・ソリューションを使用し、必要に応じてエージェントベースのポイント・ソリューションで補完するように、企業の監視戦略を修正すべきと EMA は指摘しています。また、本ホワイトペーパーの例で取り上げたエージェントレスの監視ソリューションを提供するマーキュリー社は、同ソリューションの成熟度、機能の充実度、同社の他製品スイートとの統合性において優位性を確保しており、エージェントレスのシステム監視ソリューション市場をリードしていることが今回の調査結果から示されました。

この調査報告書は Enterprise Management Associates, Inc.の許諾のもと、マーキュリー・インタラクティブ・ジャパン株式会社が翻訳したものです。(2006年3月20日)

Enterprise Management Associates, Inc.について

Enterprise Management Associates, Inc.は、急速に成長している市場調査企業であり、管理ソフトウェアやサービス市場に関する調査・分析を中心に実施しています。EMA は、e ビジネス、ネットワーク・システム、アプリケーション管理における高度なテクノロジーの活用を推進している IT ベンダーと IT プロフェッショナルの両方に戦略的な情報を提供しています。同社は、同社の専門分野における継続的な調査を実施するほか、IT サービス・プロバイダ、ISV、および他調査会社、出版社などの多様な分野の経験豊富なチームから収集された有用な情報を活用し、最新の市場調査レポートを作成しています。世界各国で開催される多くのマネージメント・フォーラムにおいて意見や見解を発表しています。

本社:

Enterprise Management Associates
2585 Central Avenue, Suite 100
Boulder, CO 80301, U.S.A.



Enterprise Management Associates, Inc.による書面による許可なく、本レポートのすべてまたは一部を複製、再生、検索システムへの掲載、または転送することは禁止されています。本レポートにおける意見や予測は現在の状況を元に判断されており、予告なく変更される場合があります。本書に記載されている製品名は各所有者の商標または登録商標となっている場合があります。©2005 Enterprise Management Associates, Inc. All Rights Reserved.